

Japan  
Society  
for  
Disaster  
Recovery  
and  
Revitalization

# 日本災害復興学会 発足記念大会プログラム

## CONTENTS

**2008年1月13日(日)・14日(月・祝)**

開催校／関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス

ごあいさつ	P.1~2
プログラム	P.3~5
日本災害復興学会の立ち上げに当たって	P.6
日本災害復興学会会則	P.6~9
キャンパスマップ	P.10

# GREETING

ごあいさつ

## Japan Society for Disaster Recovery and Revitalization



*Kojiro Miyahara*

日本災害復興学会発足記念大会委員長  
関西学院大学災害復興制度研究所所長

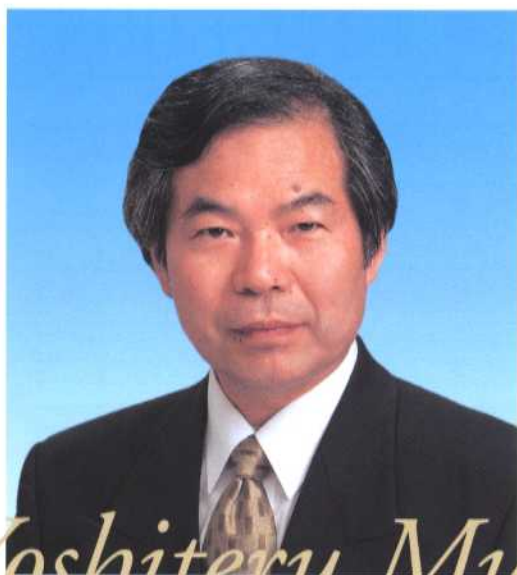
宮原 浩二郎

### 今後も災害復興研究の充実と 発展にささやかながら貢献

災害列島、日本。地震、台風をはじめ、毎年のように大きな災害が襲ってきます。自然災害では、いつでも、どこでも、どんな人でも被害を受ける可能性があり、これに対処するには社会全体の取り組みが欠かせません。その際、災害発生時の被害を少なくするための「防災」だけでなく、その後の被災者の生活や住宅、被災地コミュニティの再生という、何年にもおよぶ「復興」をどう成し遂げるかが大きな課題となっています。これは高齢化、過疎化、格差拡大が深刻化するなかで、本当の意味の「成熟した社会」を模索していくことでもあります。日本災害復興学会の発足はそのための大きな一歩となるでしょう。

関西学院大学災害復興制度研究所は、阪神淡路大震災十周年を期に設立されました。災害からの「復興」に焦点をしぼり、関連分野の研究者、各被災地の自治体やNPO・NGO関係者、法曹やメディアをはじめとする専門家の方々などのご協力のもと、研究と情報発信の活動に携わって参りました。今回の日本災害復興学会の立ち上げに際して、事務局として準備に携わることができたことを光栄に感じております。まだまだ不十分なところもあるかとは存じますが、今後も災害復興研究の充実と発展にささやかながら貢献させて頂きたいと考えております。

本日の記念大会のためにご協力を頂きました関係者の皆様に、心より厚く御礼を申し上げます。



## Yoshiteru Muroasaki

日本災害復興学会準備委員会委員長  
総務省消防庁消防研究センター所長

室崎 益輝

### いろんな意見の衝突によって 新しい価値を創造していく

災害復興学会が、なぜ必要なのか。私は三つの視点からとらえないといけないと思っています。一つ目は言うまでもなく阪神・淡路大震災や新潟県中越地震の教訓を文化にすることです。復興してよかったとか悪かったとか、議論しているだけでなく、社会の文化として定着させるということです。

二つ目には、今後大災害の時代を迎えます。その復興のプロセスで、格差の拡大など現代社会のひずみが大きく表面化してくる。そこを乗り越えるための知恵を集める。巨大災害に備える仕組みをつくる。その視点が必要だということです。

三つ目、これが一番大切なのですが、災害復興というのは、単に災害対策だけではない。災害復興には、日本の国のあり方、社会の仕組みそのものの根幹に係る問題が凝縮している。災害復興を通じて、日本の社会のあり方を考えていかなければいけないということです。

では、どんな課題をここで議論していくのか。私は三つの総合化という視点でしっかり課題を整理しておく必要があると思っています。

まず、人の復興、こころの復興、コミュニティの復興など、それぞれの復興課題を、どう総合化するかが、一つ目の大きな課題だろうと思っています。

二つ目は、どういう社会を設計するのか、あるいはどういうまちをつくり上げるのかというデザイン論、その目標に向けて、どういう形で復興を進めていくのかという運動論、そして文化の基礎をなす仕組みづくりの制度論というものを有機的に総合していく視点が必要だろうということです。

三つ目は、復興は予防につながっていかないといけないということです。復興法と予防法と救助法があって、その三本柱で災害対策基本法を抜本的に改正すべきだというのが私の意見です。復興の行きつく先は、まさに社会のあり方です。要するに、非常時を考えて日常時を正す。予防、つまり災害が起きないように社会をどうつくるかということにつながっていかないと、復興の議論というのは意味を持たないと思います。まさに、予防と復興の総合化をどう図るかが、学会の中心的なテーマになると思っています。

最後に少し進め方について私なりに思っているところを申し上げたいと思います。基本は、社会のあり方を変えていく大きなチャレンジだと申し上げましたけれど、何か大学の先生がやるのがこの学問だというようなとらえ方は、誤った既存の古いフレームであります。基本的には学び合い、真理を探究するというのは、あらゆる立場、あらゆる場面からどんどん問題が出てこないといけない。復興の問題というのは、まさに現場で一番困っている人の声が基礎になります。復興の問題を学び合いたいという、すべての人が集まる。いろんな分野、いろんな考え方、いろんな発想法の人たちが集まらないと、復興の理論というのは深まらないんだ。会員を増やすために、あなたも入ってくださいということではなくて、まさにその多様な、それから多才な、あるいはいろんな局面、いろんな経験をした人の、そのすべての知恵が集約する。それが本当の意味の学会だということです。いわゆる既存の学会のイメージを、根本から変えないといけない。議論をいろいろな形で関わらせる。異分野、いろんな意見の衝突によって新しい価値を創造していくという学会にしていきたいと思っていますので、ぜひご協力をいただきたい。

(2007年1月14日、日本災害復興学会準備フォーラムでの発言から)

# PROGRAM

プログラム

## 2008.1.13

会 場：関西学院大学B号館(10ページ・地図3番)  
101号室(大会)、102号室(拡大理事会)

### ■拡大理事会(午前10時30分～正午)

役員承認、会員承認、予算・決算、事業計画

### ■大会(午後1時30分～5時30分)

#### ■総会(午後1時30分～2時)

- 開会挨拶 大会委員長 宮原浩二郎 関西学院大学災害復興制度研究所所長
- 総 会 議 長 室崎 益輝 総務省消防庁消防研究センター所長

----- 休憩(午後2時～2時15分) -----

#### ■学会(午後2時15分～5時30分)

- 受け入れ校歓迎挨拶 平松 一夫 関西学院大学学長
- 特別顧問挨拶 貝原 俊民 財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構理事長  
(元兵庫県知事)
- 学会設立にいたる経過説明 (午後2時30分～2時45分)  
山中 茂樹 関西学院大学災害復興制度研究所教授
- 学術記念講演(午後2時45分～4時)  
演 題「我が国の災害復興の経緯と課題」  
熊谷 良雄 筑波大学特任教授
- 災害復興へのアプローチ(午後4時～5時30分)  
渥美 公秀 復興デザイン研究会代表(大阪大学大学院准教授) 復興デザイン研究会の役割  
永井 幸寿 日弁連災害復興支援委員会委員長 復興と法制度研究  
村井 雅清 被災地NGO協働センター代表 復興と運動現場

※この事業は「財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構」と  
「ひょうご安全の日推進県民会議」の助成を受けて実施しています。



防災マスコット はばタン  
ひょうご防災アクション 2007～2009

### ■懇親会(午後6時30分～8時)

会場:関西学院会館光の間(10ページ地図・2番)

# 2008.1.14

## ■復興デザイン研究会総会&被災地交流集会(午前10時~正午)

会 場：関西学院大学B号館104号室(10ページ地図・3番)  
主 催：関西学院大学災害復興制度研究所  
協 力：日本災害復興学会・復興デザイン研究会

## ■学会発足記念シンポジウム(午後1時~4時)

会 場：関西学院会館レセプションホール(10ページ地図・2番)  
主 催：関西学院大学災害復興制度研究所  
協 力：日本災害復興学会  
後 援：朝日新聞社

### ■基調講演(午後1時~2時)

演 題「災害復興におけるミスト・オポチュニティーズ」  
高坂 健次(こうさか・けんじ)  
関西学院大学社会学部教授

### ■シンポジウム(午後2時15分~午後4時)

テーマ「格差時代の復興戦略を問う」

#### ▼パネリスト(50音順)

泉田 裕彦(いずみだ・ひろひこ)

新潟県知事

井戸 敏三(いど・としぞう)

兵庫県知事

大桃美代子(おおも・みよこ)

タレント、魚沼特使

梶 文秋(かじ・ふみあき)

輪島市長

#### ▼コーディネーター

室崎 益輝(むろさき・よしてる)

総務省消防庁消防研究センター所長

## ■役員会(午後4時~4時30分)

会場：関西学院会館翼の間(10ページ地図・2番)  
○大会・企画委員会 ○広報・デジタル委員会 ○学術誌編集委員会

## Keynote Speech

基調講演



高坂 健次 関西学院大学社会学部教授

*Kenji Kosaka*

(こうさか・けんじ) 1944年生まれ。関西学院大学社会学部卒。同大学院社会学研究科修士課程修了。大阪大学大学院文学研究科博士課程中退。米ピッツバーグ大学大学院博士課程修了。元アジア太平洋社会学会会長。著書に「社会学におけるフォーマル・セオリー」(ハーベスト社)ほか。03年度より関西学院大学21世紀COEプログラム「人類の幸福に資する社会調査」の研究の拠点リーダー。理論社会学、数理社会学専攻。

## Panelist

パネリスト(50音順)



泉田 裕彦 新潟県知事

*Hirohiko Izumida*

(いずみだ・ひろひこ) 1962年生まれ。1987年、通商産業省入省。資源エネルギー庁石炭部計画課、中小企業庁小規模企業政策課、プリティッシュ・コロンビア大学客員研究員、資源エネルギー庁石油部精製課総括班長、産業基盤整備基金総務課長、国土交通省貨物流通システム高度化推進調整官など歴任。2004年、新潟県知事初当選。新潟県加茂市出身。



井戸 敏三 兵庫県知事

*Toshizo Ido*

(いど・としぞう) 1945年生まれ。1968年、自治省入省。鳥取県、佐賀県、宮城県、静岡県、国土庁土地局、自治省税務局を経て、運輸省航空局、自治省行政局、財政局、大臣官房各課長、自治大臣官房審議官などを歴任。1996年から兵庫県副知事を2期務めたあと、2001年、兵庫県知事に初当選。現在2期目。著書に「随筆集 新一歩いっほ」など。兵庫県たつの市新宮町出身。



大桃 美代子 タレント、魚沼特使

*Miyoko Omomo*

(おおもみ・みよこ) 情報番組をはじめ、料理、クイズ、バラエティと幅広い分野で司会として活躍。現在はNHK教育「住まい自分流 DIY入門」BS2「ペット相談」などに出演。食育や農業にも関心が高く、雑穀アドバイザー、野菜ソムリエ(ジュニアベジタブル&フルーツマイスター)などを取得、2007年より古代米作りに挑戦。ブログ「平農への道」<http://omomo-lohas.blog.ocn.ne.jp/> 新潟県魚沼市出身。



梶 文秋 輪島市長

*Fumiaki Kaji*

(かじ・ふみあき) 1948年生まれ。民間企業の社員、輪島市職員を経て、1991年から、輪島市議会議員を2期務める。1998年、輪島市長に初当選、2期目に市町合併に伴い失職、2006年、新しい輪島市の初代市長に当選した。現在、石川県輪島漆芸美術館理事長、石川県過疎地域自立促進協議会会長。石川県輪島市鳳至町出身。

## Coordinator

コーディネーター

室崎 益輝 総務省消防庁消防研究センター所長

*Yoshiteru Murosaki*

(むろさき・よしてる) 1944年生まれ。1977年に神戸大学工学部講師、80年に助教授、87年に教授となり、現在、名誉教授。98年から総務省消防庁消防研究センター所長。研究テーマは、建築物の防火避難設計、都市の防災安全計画、都市の災害復興計画など。国の中央防災会議、兵庫県、神戸市防災会議などの専門委員。震災犠牲者の聴き語り調査を継続している。著書に「地域計画と防災」「大震災と地方自治」など。兵庫県尼崎市出身。

